

令和6年度 大分県 英語教育改善プラン

目標 魅力ある授業づくりを推進するための教員の指導力向上と、児童の確かな英語力の育成

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CAN-DOリスト形式による学習到達目標を設定、公表、把握する学校の割合が増加
 ・設定 R4:98.4%⇒R5:100.0%
 ・公表 R4:48.6%⇒R5: 70.0%
 ・把握 R4:78.5%⇒R5: 96.4%

②小学校と連携する中学校の割合が増加
 R4:67.8%⇒R5:91.4%
 ・情報交換
 R4:58.5%⇒R5:86.2%
 ・交流
 R4:53.4%⇒R5:66.4%
 ・カリキュラム
 R4:16.9%⇒R5:25.9%

改善が必要な点

①「英語が好き」と回答する児童の割合が、やや減少した。
 R4:65.4%⇒R5:64.8%

②言語活動を通して目指す資質・能力を確実に育成することについて、改善の余地がある。

2. 要因分析

①・県内18校の英語教育推進校において、英検ESGや公開授業等を実施して好事例を普及したことにより、増加したと考えられる。
 ・県内各地区の代表者が参加する「未来を創る授業力向上協議会」を実施したことにより、学習指導要領の趣旨の実現や授業改善につながったと考えられる。

②英語教育推進校の公開授業に中学校教員が参加したり、小中連携を推進するリーフレットを作成・活用したりしたことにより、増加したと考えられる。

①児童が「やってみよう」と思う単元が構成されておらず、相手意識や目的意識を大切に言語活動が行われていないことが要因と考えられる。

②具体的な児童の姿を想定した上で評価規準を設定しておらず、努力を要する状況にある児童に十分な手立てが講じられていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①小学校英語専科教員の指導力向上
 ・専門性を有する教員の指導力の向上を図るため、年間2回の協議会を実施する。
 ・専科教員の指導・評価事例をもとに参加者相互の協議を行い、指導力の向上を図る。

②小中の学びをつなぐ英語教育の推進
 ・「未来を創る授業力向上協議会（小・中）」を実施し、学習指導要領の趣旨の実現や授業改善を図る。
 ・令和6年度は、小学校の協議会に、中学校教員を参加させ、小中連携を推進。

①留学生との本物のコミュニケーションによる学習意欲の向上
 ・英語を学ぶ意欲の向上を図るため、希望する学校を対象に、立命館アジア太平洋大学（APU）留学生との交流を行う。
 ・留学生が実際に小中学校に行く「学生派遣」と、Zoomを用いた「オンライン交流」の2通りの方法で行う。
 ・教員には単元を見通して魅力ある授業を構想できる力の育成につなげ、児童には単元のゴールで実際に英語を使って外国の方とコミュニケーションができる楽しみにつなげる。

②大分県教育課程研究協議会における「改善の重点」
 ・小学校英語教育の課題を焦点化し、各市町村に対して授業改善の視点（改善の重点）を周知。
 ・「学習評価の充実」と「小中連携の推進」をテーマに、各市町村の代表者が12月の協議会で取組を報告する。

令和6年度 大分県 英語教育改善プラン

生徒の英語力の育成と教員の確かな指導力の向上

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5:45.0%⇒R6:50.0%)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①小学校との連携に取り組む中学校の割合が増加。
- ・情報交換
R4:58.5%⇒R5:86.2%
 - ・交流
R4:53.4%⇒R5:66.4%
 - ・カリキュラム
R4:16.9%⇒R5:25.9%
- ②生徒の英語による言語活動が、授業において半分以上と回答した割合が増加。
R4:72.2%⇒R5:77.5%

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合に、引き続き改善の余地がある。
- 大分
R4:44.3%⇒R5:45.0%
- 全国
R4:49.2%⇒R5:50.0%
- ②「英語が好き」と回答する生徒の割合が、大幅に減少した。
R3:61.3⇒R4:50.8⇒R5:44.6

2. 要因分析

- ①小学校英語教育推進校の公開授業において、中学校英語科教員が事後協議等に参加したり、小中連携を推進するリーフレットを研修会等で活用したりしたことにより、増加したと考えられる。
- ②英語の教員を対象にした協議会において、指導教諭による授業動画を用いた説明・協議や文部科学省調査官による講義等を行うことにより、言語活動を通じた指導の効果や重要性について周知したことで、増加したと考えられる。

- ①学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくりや評価等についての理解が必要であると考えられる。
- ②生徒が魅力を感じるような単元構成や授業のめあてが設定できていないと考えられる。また、英語の学習を苦手と感じる生徒への適切な指導や評価が授業内で実施できていないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①小中連携の更なる推進
中学校において、小学校からの学びを意識した指導を促進するため、小学校教員を対象とした「未来を創る授業力向上協議会」に中学校英語科教員も参加し、小学校における外国語活動及び外国語科の学習内容や指導方法についての理解を深める。
- ②授業における生徒の英語による言語活動の割合の向上
学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくりや評価等についての理解を促進するため、中学校英語指導力向上協議会において、文部科学省の調査官による講義を実施する。
- ①中学校英語科教員の英語指導力の向上
・県内の英語教育の課題を解決するため、全中学校が参加する「中学校英語指導力向上協議会」を実施し、生徒の英語力を育成し、教員の確かな指導力を向上させる。
・県内の英語科教員にとって模範となる指導方法等について周知するため、指導教諭による授業を撮影し、動画をWebサイトに掲載する。また、その授業動画を各種協議会で活用する。
・大分県内の生徒の英語力を経年で比較し、成果や課題を把握した上で授業改善を図るため、県内全ての中学校1・2年生が「民間テスト（英検IBA）」を受検する。
- ②単元構成や言語活動の工夫による学習意欲の向上
・学習の成果を確かめると共に、英語を学ぶ意欲の向上を図るため、立命館アジア太平洋大学の学生とオンラインや学校で交流する。
・（再掲）県内の英語科教員にとって模範となる指導方法等について周知するため、指導教諭による授業を撮影し、動画をWebサイトに掲載する。また、その授業動画を各種協議会で活用する。

令和6年度 大分県 英語教育改善プラン

目標

生徒の発信力を育成するための指導方法と評価方法の改善と構築

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 49.9%、B1以上 17.8% ⇒R6 : A2以上 52.0%、B1以上 20.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が改善。
(R4:45.9%⇒R5:49.9%)
- ②CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が改善。
(R4:13.2%⇒R5:17.8%)

未だ改善が必要な点

- ① 4 技能をバランスよく育成するため、多様な場面設定において言語活動を充実させることに改善の余地がある。
- ② S/W両方のパフォーマンステスト実施率を向上させることに改善の余地がある。

2. 要因分析

- ①民間テストを活用して、生徒の英語力の客観的な把握ができるようになったと考えられる。
- ②教員研修会を実施したことで、B1相当レベルの具体的なイメージを持ち、学習評価に活かすことが出来るようになり、教師の見取る力が育成されたと考えられる。

- ①について、授業で、英語によるコミュニケーションの場面を十分設定することができていないことが要因と考えられる。
- ②について、特に「論理・表現」においてパフォーマンステストを実施できている学校が少ないことが要因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①・パフォーマンステストに関する教職員研修を実施する。
 - ・ALTの授業における活用やパフォーマンステストの補助などALTのさらなる効果的な活用を促進する。
- ②指導教諭および探究的な学びの実現に関する研修に昨年度参加した教員等が、言語活動の充実に関する授業実践を発表し、全県で共有する。
- ①英語科の「探究的な学び」の構築を進める。
 - ・「探究的な学び」の実践による言語活動の充実を図る。
 - ・推進チームによる授業公開を実施する。
 - ・公開授業等により指導方法を発信する。
- ②パフォーマンステスト実施率の向上
 - ・パフォーマンステストの実践例を紹介する。
 - ・ワークショップ型研修でパフォーマンステストを実際に作成し、自校で活用する。
 - ・年間指導計画でパフォーマンステストを2回以上実施するよう呼びかける。
 - ・パフォーマンステストの実施状況を事前に把握する。
 - ・研修実施後、各校で行った言語活動及びパフォーマンステストの実践例を収集し、共有する。

大分県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	49.9	52		54		56		58		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	16	17.8	20		21		22		23		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	55	42.5	55		60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	49.8	54		56		58		60		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	42.6	80		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	80	70.2	80		80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	88.1	89		89.5		90		90.5		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	30.4	55		60		65		70			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	45.0	50		50		50		52		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	77.5	80		81		82		83		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	86.5	90		91		92		93		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	83.6	85		87		90		92	
		達成状況の把握(%)	85	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	44.5	52		55		57		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	60.2	65		67		70		72			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	50	70	75		80		85		90
		達成状況の把握(%)	80	96.4	100		100		100		100